


レジデンストラック

出入国規制の緩和

全世界の国と地域からの入国の緩和



2020/10/05 更新情報 補足

- ・ 10月05日時点での確定公表情報です。変更となる場合もございますので、最新情報は各自ご確認くださいようお願い申し上げます。
- ・ 情報の確認には細心の注意を払っておりますが、誤記等も含めて、一切の責任は負えませんので、悪しからずご了承くださいませ。

全世界の国と地域からの入国の緩和

令和2年9月25日、日本国政府は、同年10月1日から、ビジネス上必要な人材等に加え、順次、留学、家族滞在等のその他の在留資格も対象とし、

原則として全ての国・地域からの新規入国を許可することを決定しました

(防疫措置を確約できる受入企業・団体がいることを条件です。)

↓↓ 政府の発表はほぼこのサイトに集められています ここから確認されると良いです ↓↓

国際的な人の往来再開に向けた段階的措置について 10/2

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003380.html

↓↓ 改訂された政府発表のレジデンストラックの説明資料です。必見 ↓↓

レジデンストラックの手続きについて (PDF) (9月29日時点)

https://www.meti.go.jp/covid-19/ourai/pdf/residence_truck.pdf

**レジデンストラックの枠組みには変更ありません
留学生も対象になりました。**

2種類のレジデンストラック

感染症危険情報レベル3

上陸拒否対象国

インド、インドネシア、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ブータン、ネパール、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ウズベキスタン

外国人レジデンストラック

X国	出国前
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 我が国在外公館にて査証等申請（誓約書の提示を含む。） ■ 14日間の健康モニタリング ■ 検査証明の取得
日本	入国時
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空港での検査 ■ 質問票（健康状態等）の提出 ■ 誓約書の提出 ■ 検査証明の提出 ■ 接触確認アプリの導入等
	入国後
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 14日間の公共交通機関不使用 ■ 14日間の自宅等待機 ■ 14日間の健康フォローアップ ■ 14日間の位置情報の保存


感染症危険情報レベル2

カンボジア、スリランカ、ミャンマー、モンゴル、ラオス、

外国人レジデンストラック

Y国	出国前
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 我が国在外公館にて査証等申請（誓約書の提示を含む。） ■ 14日間の健康モニタリング
日本	入国時
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質問票（健康状態等）の提出 ■ 誓約書の提出 ■ （接触確認アプリの導入等(推奨)）
	入国後
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 14日間の公共交通機関不使用 ■ 14日間の自宅等待機 ■ （14日間の健康フォローアップ(推奨)） ■ （14日間の位置情報の保存(推奨)）

上陸拒否でない国は原則PCR検査が免除されますが、相手国によってはPCR検査が必要な国もありますので、それぞれ、ご確認をお願いします。



注意！！！！

相手国によって微妙にその要件や手続きが異なります。

相手国の「日本大使館」と、在日本の相手国の大使館のホームページを必ず確認して下さい!!!

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/link/zaigai/>

感染症危険情報レベル3 (タイ、ベトナム、マレーシア、台湾・・・・)

HTTPS://WWW.MOFA.GO.JP/MOFAJ/CA/CP/PAGE25_002003.HTML

感染症危険情報レベル2 (カンボジア、ラオス、ミャンマー・・・・)

HTTPS://WWW.MOFA.GO.JP/MOFAJ/CA/CP/PAGE25_002004.HTML

Q&A 全てをよく読んでください

1. 厚生労働省 水際対策の抜本的強化に関するQ&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19_qa_kanrenkigyuu_00001.html
2. 経済産業省 国際的な人の往来再開に向けた段階的措置についてQ&A
<https://www.meti.go.jp/covid-19/ourai/pdf/qa.pdf>
3. 技能実習機構のレジデンストラック利用のQ&A
<https://www.otit.go.jp/files/user/docs/200910-4.pdf>
4. 技能実習機構のコロナ対応に関するQ&A
<https://www.otit.go.jp/files/user/docs/200917-1.pdf>
5. 厚生労働省 帰国された皆様への Q&A
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000656244.pdf>

その他の注意点

■ 【雇用契約書の確認】

※VISA申請前に確認して下さいコロナで契約から数か月経過、10月になったので最低賃金等の確認が必要な場合があります。修正が必要な場合は適切に修正し母国語できっちりと説明して本人の署名をもらっておきましょう。

■ 【Forwarding Letter】

※緊急事態宣言前にVISA発給されていた人、申請していた人には「コロナを理由に雇用を破棄しません・・・」と言った事を記載した書類を求められる場合があります。相手国大使館にご確認ください。 ※ミャンマー、ネパールは必要でした。

■ 【住民登録等に必要な委任状等】

住民登録や銀行口座開設の手続きなどは、「個室管理ができる施設で待機し、外出はせず、人との接触を可能な限り控え」に従い、必ず代理人等による手続きを実施してください。「委任状」が必要です。役場や銀行等に事前に確認して準備をしておいてください。

コロナリスク

母国で陰性、空港で陰性であっても、隔離期間中に発症する例も出てきています。最悪の事態をお考えの上、最善の対応をお取りになられることをお勧めします。感染者を責めたりしてはいけません。しっかりとリスクを認識して、対応策を準備しておいてください。

感染者は必ず発生します。感染を拡大させないように考えて対応しておく事が、最も大切なことなのです。

▶ 【送り出し国で・・・】

① 出国前14日間の健康モニタリングが義務付けられています。その間に、発熱や呼吸器症状、倦怠感等を含む新型コロナウイルス感染症の症状が認められる場合には、日本への渡航を中止しなければいけません。

② 出国前のPCR検査で陰性でなければ、出国は出来ません。(レベル3の国)

航空チケット、受け入れ施設・・・全ての予定が変更になります。キャンセル費用も発生する可能性があります。出国前も日本での待機期間同様に、HomeStayで3密を避ける事を指導してあげて下さい。日本へ出発する事が決まると、送別会や実家への帰宅、パーティ等も良くある話ですが、十分気を付けるように指導をしてください。

コロナリスク

■ 【受入れ担当者】

空港への出迎え以降、感染者との接触が最も多いと思われるので、PCR検査の実施、そして陰性だとしても自宅待機の指示が出ると思われます。受け入れ企業や監理団体としても、担当者が確実に非感染陰性と判明するまでは、出社して欲しくないと思います。業務が停滞する覚悟はしておいてください。もしも感染していた場合、その家族や受け入れ団体・監理団体・登録支援機関の職員にまで範囲は拡大しますので、そのリスクもしっかりと検討しておいてください。業務が止まってしまう事も考えられます。

■ 【感染者】

過去の行動歴、接触者等の情報の確認がされますので、入国前2週間、入国後2週間の記録をしっかりと残すように指導しておきましょう。スマホ記録の提供を拒んだり、記録してなかった場合、誓約書違反になる事を本人も、受け入れ団体もしっかりと理解しておいてください。

症状によって、入院、隔離施設、自宅待機等の指示が出ますから、指示に従ってください。その後陰性の確認がされるまで自由な行動は出来ませんので、当初のスケジュールは完全に変更となりますのでご注意ください。

コロナリスク

■ 【待機施設】

感染者数にもよりますが、使用していた部屋は、封鎖して消毒が実施されると考えられます。場合によっては施設全体の封鎖や消毒も考えられますので、ご注意ください。

■ 政府の発表や誓約書に書いてある事項を確認して、しっかりと順守してください。 相部屋させたり、外出せたり、共用スペースを利用させたり、絶対にしないでください。

■ 感染者が発生したら調査されて、確実に違法行為は、ばれてしまうとお考えて下さい。違法行為がばれないように、外国人の若者に口止めしたり、口裏を合わせるように指示を出す方もいらっしゃいますが、「日本人はルールを守っていたのに、なんだ自分たちの国よりも嘘つきの国なんだ」なんて理解をしてしまいます。 そんな恥ずべき行為は絶対になさらないように、、、仕事を始めても、その子たちは会社のルールを守らないかもしれませんよ・・・よく考えて行動されてください。

コロナリスク

■ 【保健所からの消毒命令】

保健所が疫学調査を行い、感染拡大のおそれがある施設に対して消毒を指示します。

消毒を実施するのは・・・

- (1) その場を管理している管理者が消毒する。
- (2) 管理者から消毒業者へ消毒を依頼する。

いずれにしても、自己負担です。お金はかかります。

感染が分かってからの消毒実施の流れ

技能実習関係

➡ 【費用負担】

機構よりの通達は「入国前に必要なPCR検査にかかる費用や、民間医療保険加入の費用、入国後の移動、14日間の待機期間中の食費等及び宿泊施設の確保に必要な費用は実習実施者が負担することが望ましく、技能実習生本人に負担させるべきではありません。」

入国に必要な手続き・費用ですので、受け入れ側で負担しましょう。技能実習生から徴収しないようにしてください。母国でのPCR検査費用も日本側で負担しましょう。航空チケットは当然日本側負担ですよ。

➡ 【入国後講習】

2週間の待機中に、リモートで入国後講習をすることは可能です。教室やその他の施設に実習生を集めて講習は、絶対に実施しないでください。個室での待機です。リモートでの講習の記録をしっかりと取っておいてください。

➡ 【技能実習計画の軽微変更届】

入国予定日が大きく変更になった場合、実習機構に届け出が必要となります。必ず確認してください。

<https://www.otit.go.jp/files/user/docs/200916-2.pdf>